

施策番号	1305		
施策名	子どもの健全育成のための環境づくり，放課後の子どもたちの居場所づくり		
概要	放課後の子どもたちの安心・安全な居場所を確保するため，児童館・学童保育所における取組の充実を図るとともに，児童館と地域との連携の強化を進める。		
担当局・部室	保健福祉局・子育て支援部	共管局・部室	
上位政策	13 子育て支援		
施策に関係する 主な分野別計画等	京都市未来こどもプラン		

### 施策の評価

#### 1 客観指標評価

指標名	24年度	25年度	26年度評価						
			前回値	最新値	目標値	達成度	評価	指標のウエイト	
1 児童館の利用児童数(人)	a	a	611,286	657,081	611,286	107.5%	a	1.00	
2 学童クラブ事業の登録児童数(人)	a	a	8,404	8,713	8,404	103.7%	a	1.00	
3 中高生と赤ちゃんととの交流事業実施箇所数(箇所)	a	a	42	46	46	100.0%	a	0.50	
4 -	-	-	-	-	-	-	-	-	
5 -	-	-	-	-	-	-	-	-	
6 -	-	-	-	-	-	-	-	-	
		a	a	客観指標総合評価				a	

#### 2 市民生活実感評価

\*この評価は，毎年5月頃に実施している京都市市民生活実感調査のアンケート結果を基にしています。

設問	26年度回答						有効回答者数	評価
	そう思う	どちらかと言うとそう思う	どちらとも言えない	どちらかと言うとそう思わない	そう思わない			
1 子どもたちが安心して過ごせる居場所や遊び場が身近にある。	38	134	188	106	59	525	c	
	7.2%	25.5%	35.8%	20.2%	11.2%			
2 -							-	
3 -							-	
4 -							-	
5 -							-	
市民生活実感調査総合評価								c

### 3 総合評価(客観指標総合評価+市民生活実感調査総合評価)

B	施策の目的がかなり達成されている					25年度	B
	重み付け	<input checked="" type="checkbox"/> 客観指標	a	<input type="checkbox"/> 市民の実感	c		
(重み付けの理由) 対象者が子育て世帯という限られた施策であり、市民の生活実感に施策の効果が反映されにくいと考えられるため、客観指標を重視する。						24年度	B
(原因分析) 【客観指標】児童館の利用児童数、学童クラブの登録児童数及び中高生の赤ちゃんとの交流事業実施箇所数については、3年連続a評価と高い評価で安定している。 【市民の実感】一元化児童館130館の設置完了により「児童館の利用児童数」「学童クラブの登録児童数」は着実に増加しているが、市民への広報・周知が不足していることから、必ずしも市民生活において「身近な居場所や遊び場がある」との実感にはつながっておらず、昨年度に引き続きc評価となった。							

#### 今後の方向性の検討

#### <この施策を構成する事務事業>

	事業名	事業費の状況(千円)		26年度事務事業評価結果 における目標達成度評価	担当局
		25年度 決算額	26年度 予算額		
1	八瀬野外保育センター運営補助	17,330	17,389	良い	保健福祉局
2	桂坂野鳥遊園運営補助	4,259	4,259	普通	保健福祉局
3	児童の健全育成及び放課後留守家庭児童対策	2,903,001	2,863,614	良い	保健福祉局
4	京都こども文化会館運営補助	30,554	32,957	普通	保健福祉局
5	放課後ほっと広場	29,635	27,002	かなり良い	保健福祉局
6	学童クラブ待機児童対策(整備・児童館)	22,113	22,162	—	保健福祉局
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

\*予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含みます。

#### <今後の方向性>

- 一元化児童館130館の設置により、概ね児童の生活圏に設置が完了したが、引き続き、自由来館機能の充実などにより、「児童館の利用児童数」、「学童クラブの登録児童数」の伸びを維持し、そのうえで市民生活においても実感として反映されるよう、学童クラブ機能を有する児童館等が整備されていない地域において、放課後まなび教室と学童クラブ機能を有する事業を融合した「放課後ほっと広場」の増設など、幅広い子育て支援の取組の推進に努めていく。
- また、児童館と地域との連携強化の観点からも、子育て世帯以外も含めて市民への広報・周知に努める。

施策名	1305	子どもの健全育成のための環境づくり，放課後の子どもたちの居場所づくり
-----	------	------------------------------------

指標名	児童館の利用児童数（人）
-----	--------------

担当課	児童家庭課	連絡先	251-2380
-----	-------	-----	----------

### 1 指標の説明

児童館における自由来館児童の利用者数の合計

### 2 指標の意味

仕事と子育ての両立に資する児童館の利用状況を示す指標

### 3 算出方法・出典等

算出方法：当該年度末における児童館利用者数の累計  
出典：各施設からの報告

### 4 数値

	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	24年度	25年度		数値	根拠	達成度
数値	611,286	657,081	45,795人増	611,286	過去5年間の最高値	107.5%

	全国順位	中長期目標			備考
		数値	目標年次	達成度	
数値					

### 5 評価基準

最新の数値が過去5年間の  
a：最高値以上  
b：最高値未満～上中間値（最高値と平均値の間）以上  
c：上中間値未満～平均値以上  
d：平均値未満～下中間値（平均値と最低値の間）以上  
e：下中間値未満

### 6 基準説明

過去5年間の数値を基に，過去5年間の最高値以上をa，平均値以上をcとし，最低値も含めた按分で基準を設定した。  
最高値：611,286（平成24年度）  
平均値：545,982  
最低値：480,678（平成21年度）

### 7 評価結果

24	25	26
a	a	a

指標名	学童クラブ事業の登録児童数（人）
-----	------------------

担当課	児童家庭課	連絡先	251-2380
-----	-------	-----	----------

### 1 指標の説明

児童館及び学童保育所において実施している，学童クラブ事業の登録児童数の合計

### 2 指標の意味

仕事と子育ての両立に向けた昼間留守家庭への支援状況を示す指標

### 3 算出方法・出典等

算出方法：当該年度当初における学童クラブ事業の登録児童数の合計  
出典：各施設からの報告

### 4 数値

	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	24年度	25年度		数値	根拠	達成度
数値	8,404	8,713	309人増	8,404	過去5年間の最高値	103.7%

	全国順位	中長期目標			備考
		数値	目標年次	達成度	
数値					

### 5 評価基準

最新の数値が過去5年間の  
a：最高値以上  
b：最高値未満～上中間値（最高値と平均値の間）以上  
c：上中間値未満～平均値以上  
d：平均値未満～下中間値（平均値と最低値の間）以上  
e：下中間値未満

### 6 基準説明

過去5年間の数値を基に，過去5年間の最高値以上をa，平均値以上をcとし，最低値も含めた按分で基準を設定した。  
最高値：8,404（平成24年度）  
平均値：8,149  
最低値：7,893（平成20年度）

### 7 評価結果

24	25	26
a	a	a

施策名	1305	子どもの健全育成のための環境づくり，放課後の子どもたちの居場所づくり				
指標名	中高生と赤ちゃんとのお交流事業実施箇所数（箇所）					
担当課	児童家庭課	連絡先	251-2380			
<b>1 指標の説明</b>						
中高生と赤ちゃんとのお交流事業を実施する児童館の箇所数の合計						
<b>2 指標の意味</b>			<b>3 算出方法・出典等</b>			
子どもを共に育むまちづくりに向けた思春期児童の健全育成の進捗状況を示す指標			算出方法：当該年度中における中高生と赤ちゃんとのお交流事業実施児童館数の合計 出典：事業担当課調べ			
<b>4 数値</b>						
	前回数値 24年度	最新数値 25年度	推移 4箇所増	目標値		
数値	42	46		数値 46	根拠 「京都市未来子どもプラン」達成のために当年度達成すべき数値	達成度 100.0%
	全国順位	中長期目標			備考	
数値		数値 50	目標年次 26年度	達成度 92.0%		根拠 京都市未来子どもプラン
<b>5 評価基準</b>		<b>6 基準説明</b>		<b>7 評価結果</b>		
該当年度の実施箇所数が a：新規実施4箇所以上 b：新規実施3箇所 c：新規実施2箇所 d：新規実施1箇所 e：新規実施なし		「京都市未来子どもプラン」で掲げる平成26年度までの目標数値（50箇所）を達成するためには，各年度平均4箇所の新規実施が必要であるため		24	25	26
				a	a	a